

奈良市議会議員 日本維新の会奈良市議団 所属

# 佐野かずのり

## 議会活動レポート

### ～住みよく居心地の良い奈良市へ～



市議として2年目をむかえ、主に観光・農業政策についての市政課題に取り組んでおります。本号では令和4年9月奈良市議会定例会、観光文教委員会での質問や要望、そのほか日々の活動をご報告いたします。

#### ●令和4年9月 定例会

#### ◆ 食と農の未来づくり推進計画 ◆

世界では深刻な食糧危機が問題になっており、日本においても食糧自給率の向上は国家の最重要課題でもある。

食糧自給率を上げるためには、生産者・加工業者・販売者・消費者など食料に関係する全ての人たちで取り組む必要があり、奈良市では令和4年3月に「食と農の未来づくり推進計画」が策定された。本計画には「安心・おいしい奈良の食から人と産地の未来づくり」という基本方針が掲げられている。その基盤となるのは、まずは農地を守り農業を支えていく人材の確保だと考える。

市長からも、農業経営の基盤を強化していくことも重要な施策のひとつであり、新たな担い手の確保と育成に繋がる事業展開を継続的に実施し、食と農の未来づくりを進めていきたいとのことであった。

また、本計画の中には学校等における食育の推進、地元農産物への市民の理解を含め、地産地消を促していくと書かれている。

食に関する指導や農林畜産業の体験学習を通して、子どもたちが食の大切さを学ぶ機会の提供が大事であり、市立学校では草花や野菜などを育てたり、田植え・稲刈りを行い、自分たちで育てたお米を食べるといった活動を行っている。

学校給食では地場産物や郷土料理を積極的に取り入れられているが、奈良市産に限定した農産物で通年使用されているのはお米のみであるため、お米以外の品目に関しても奈良市産を増やす施策・取り組みが必要と考える。

食糧自給率の向上、地産地消の推進は、農地があるからこそできることであり、物価高騰や獣害対策、担い手の確保など農業経営存続には課題も多い。

生産者とともに考え、課題に取り組む施策で食糧自給率の向上を目指し、食と農の未来づくり推進に努めていただくよう要望した。



#### ●令和4年8月 観光文教委員会

#### ◆ 奈良町の観光客の動向とイベント ◆

観光客も増加傾向にあり、夏の奈良町の恒例イベントである「元興寺寄席」も国宝である元興寺禅室において、今年は有観客で実施された。

また、「インターカレッジコンペティション」「奈良町見知り」「きたまちという」など新たなイベントもスタートしており、今後は施設の管理や運営など最新の情報の収集、利用状況の分析、観光客のニーズに応じた取り組みをしていただくよう意見した。



#### ◆ 有害獣防除施設の補助について ◆

有害獣の防除対策として、自作の防除柵に要した資材費については補助金申請の資料を審査し、補助対象として算定されているが、それに伴う労力や手間に係る労務費は補助対象ではないため、見直しの検討を要望した。

#### ◆ 文化財補助事業 ◆

文化庁より「クラウドファンディング等を含む寄付により資金調達した場合においては、定められた加算率に替えて当該資金調達によって得られた額を、補助対象経費の20%を上限として加算することができる」という特例が新設された。

文化財保護に対する補助の充実について、国の新しい仕組みを幅広く知っていただき、奈良市の文化財を守る仕組み作りを進めていただくよう要望した。

